

# ペット小売業界における地球温暖化対策の取組 ～低炭素社会実行計画2021年度実績報告～

2023年3月

一般社団法人全国ペット協会

# 目次

1. ペット小売業の概要
2. ペット小売業界の「低炭素社会実行計画」フェーズⅡ
3. 2021年度の取り組み
4. その他の取組

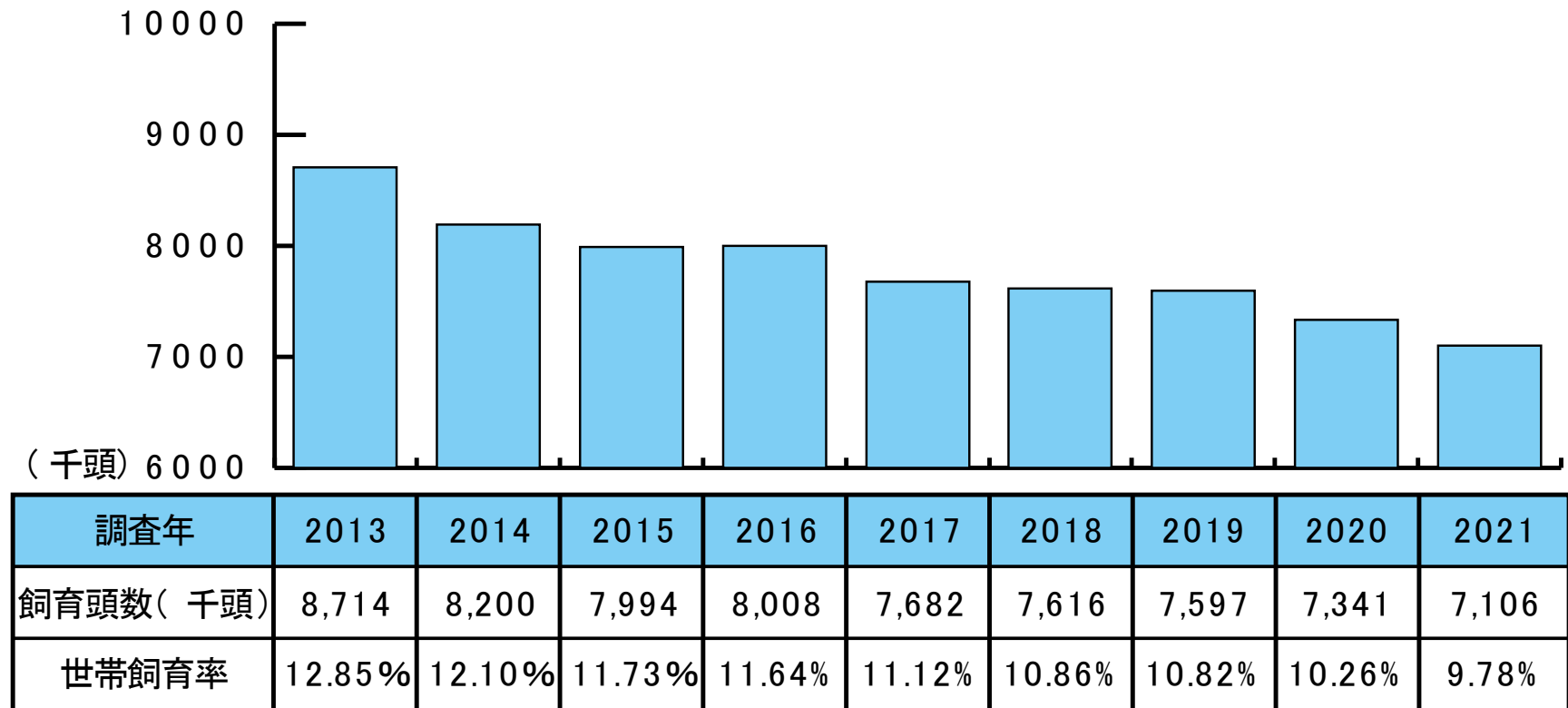
# 1. ペット小売業の概要

- ペット小売業
  - ペットやペット用品の販売業
- 業界の規模
  - 事業所数：22,258事業所（零細企業が大多数）
    - 「動物の愛護及び管理に関する法律」にもとづく第一種動物取扱業の登録事業所のうち、「販売業」の登録数（R3.4.1）
  - 市場規模：約1,200億円程度
    - ペット（観賞魚や昆虫なども含むペット動物全体）市場規模推計（H19（株）野生社調べ）
- 「ペット小売業における低炭素社会実行計画」参加事業所
  - 12社273事業所

# 業界の現状（1）

- ・犬の飼育率は低下傾向がみられ今後の飼育意向も低下傾向。
- ・猫の飼育率および飼育意向は横ばい傾向。
- ・新規飼育者の飼育頭数は、2020年にコロナによると思われる犬・猫の増加があった。

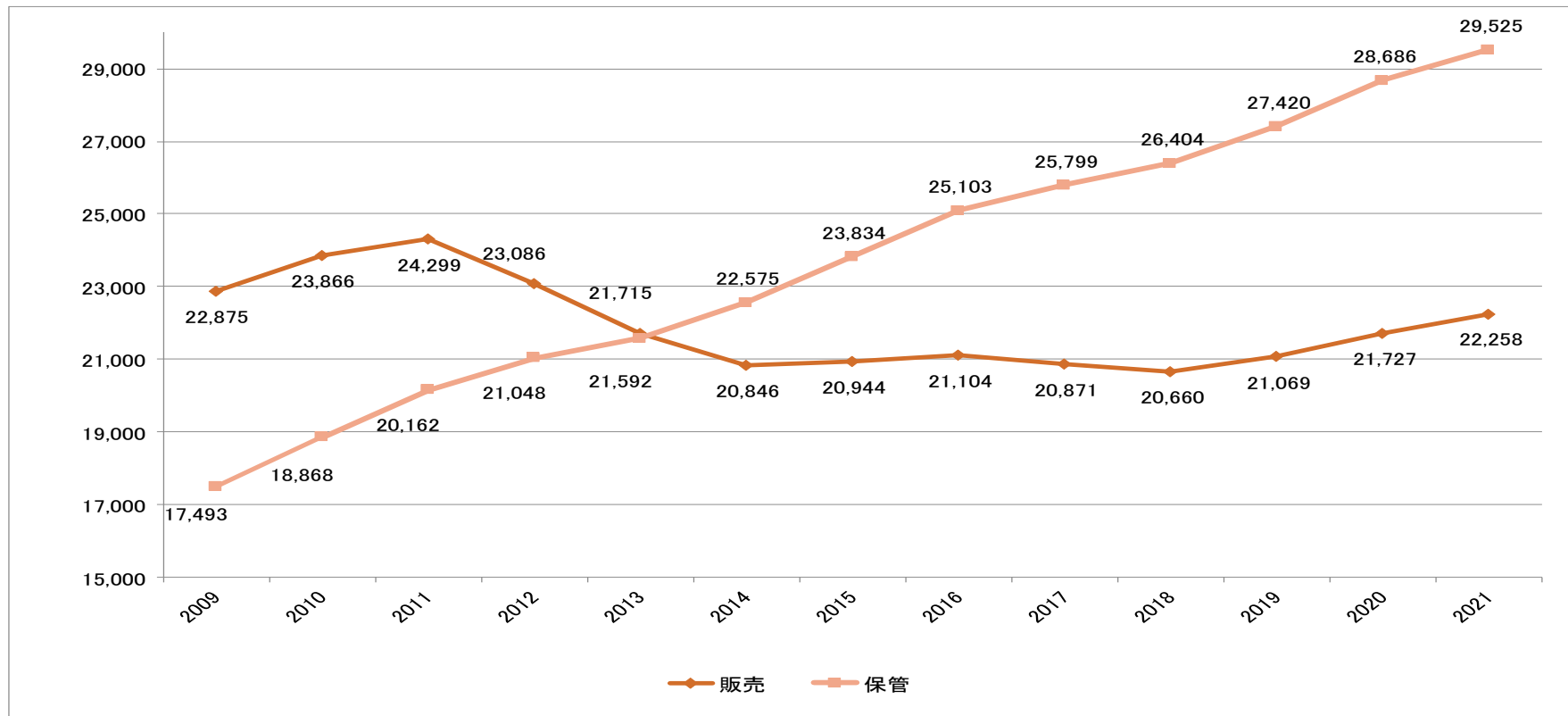
犬の推定飼育頭数推移（一般社団法人ペットフード協会 調べ）



# 業界の現状（2）

・トリミングサロンやホテルなどのサービスを行う「保管業」は増加傾向が続く。2019年以降、「販売業」も増加傾向にある

環境省 動物取扱業の登録状況



## 2. ペット小売業界の「低炭素社会実行計画」フェーズⅡ

- 目標指標：CO<sub>2</sub>排出量原単位
  - 2030年 2015年7月策定
  - CO<sub>2</sub>排出量原単位を2012年と比較し同水準以下とする。
- 目標策定の背景
  - ペット小売業は零細な事業所がほとんどである。そうした事業所が実施できる対策には限りがある。
  - 2007年よりペット小売業における地球温暖化対策として「ペット小売業における環境自主行動計画」を実施しており、その最終年度である2012年度には、零細な事業所でも可能と考えられる対策を実施していた。
  - 以上から、2012年度の実績値と同水準以下を目指すことは、ペット小売業界の最大限の努力を踏まえた結果と考えている。

## 4. 2021年度の取組実績

事業所における取組事例①（%は取組率）

省エネ設備の導入	導入している	導入を検討
高効率給湯器	90.0%	0.0%
照明器具のLED化	80.0%	10.0%
サーキュレーター等循環器の導入	80.0%	10.0%
ケージ内に冷感マットやヒーターを設置	80.0%	0.0%
省エネタイプのエアコンの導入	60.0%	20.0%
遮熱フィルムや断熱ガラスの導入	40.0%	40.0%
省エネタイプのドライヤー	20.0%	40.0%
全熱交換器（換気設備）	10.0%	40.0%
照明のセンサー制御	0.0%	60.0%

## 4. 2021年度の取組実績

事業所における取組事例②（％は取組率）

運用/取組	実施している	実施を検討
冷暖房の適切な温度設定	100.0%	0.0%
エアコンフィルターのこまめな清掃	90.0%	0.0%
換気設備のこまめなメンテナンス	50.0%	10.0%
不要時のこまめな消灯	90.0%	10.0%
照明本数の適正化（間引きなど）	50.0%	10.0%
営業時間の短縮	20.0%	30.0%
（スマートモニター等で）電気使用量を定期的にチェック	20.0%	40.0%



## 5. その他の取組

- 情報発信の取組

- 加盟店に向けた情報発信（業者向け）

- 会報誌、ホームページによる情報発信
- 冊子「ペットショップの省エネルギー対策」による啓発



- 参加事業所からの情報発信（一般向け）

- 各事業所では「EcoShop」
- ステッカーを店頭に掲示

